機械器具（21）内臓機能検査用器具

管理医療機器　特定保守管理医療機器　心音トランスデューサ　33315000

心音センサ　TA-701T

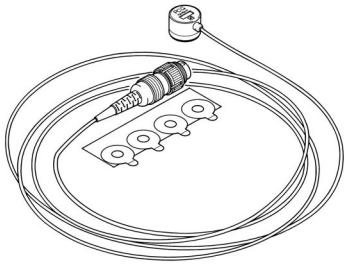
禁忌・禁止

併用医療機器[相互作用の項参照]

- 高圧酸素患者治療装置内での使用
- 可燃性麻酔ガスおよび高濃度酸素雰囲気内での使用
- 磁気共鳴画像診断装置(MRI装置)

形状・構造および原理等

本品は、心音信号を体表面で検出する、フローティングタイプの加速度型心音センサです。



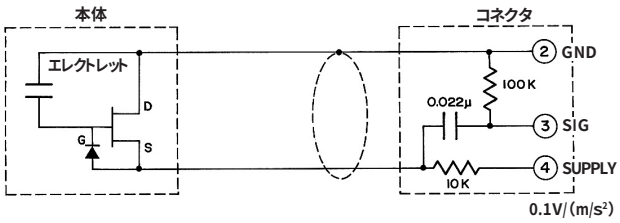
検出部材料:ABS樹脂　V-521

付属品

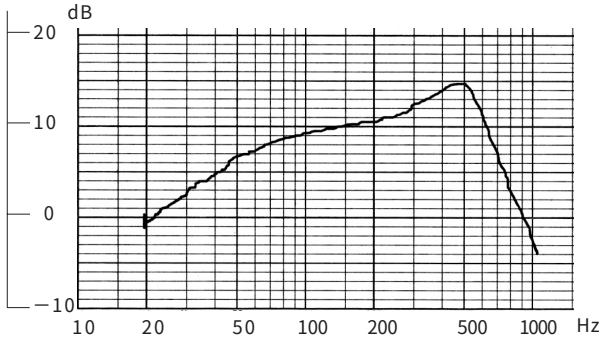
名　称	製品コード	数量	追加注文番号
粘着カラー	356125A	10枚セット	H260

原　理

本品は可動電極、固定電極により、心音を加速度として検出し、電気信号に変換し出力するセンサです。



周波数特性の一例



使用目的、効能または効果

使用目的

本品は、胸壁上から心音を加速度として検出する心音センサです。

品目仕様等

感　度	0～12dB(150Hz)　0dB=0.1V/(m/s²)
周波数特性	20～600Hz
共振周波数	350Hz以上
患者漏れ電流	10μA以下(240VAC)
耐電圧	4000VAC／1分間
使用電源	−5～−15V

操作方法または使用方法等

使用方法

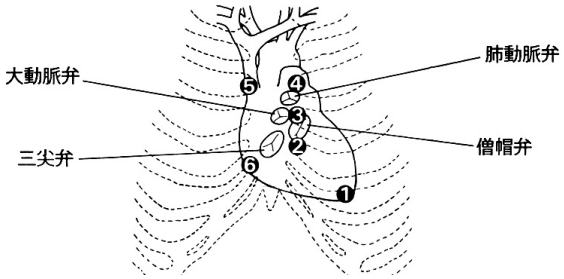
装置に接続する

装置の心音入力コネクタに接続します。

センサの装着位置

センサの装着位置は、被検者ごとに聴診器で心音を聴取しながら探してください。

一般的には、図に示す位置で心音の聴取が行われていますが、動脈管開存、動脈弁狭窄、心室中隔欠損などの患者さんの場合は、症状に応じてセンサを適宜移動させてください。



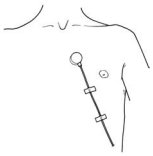
	部位	主に対象となる弁
①	心尖部	僧帽弁
②	第4肋骨胸骨左縁	僧帽弁
③	第3肋骨胸骨左縁	肺動脈弁・大動脈弁
④	第2肋骨胸骨左縁	肺動脈弁・大動脈弁
⑤	第2肋骨胸骨右縁	肺動脈弁・大動脈弁
⑥	第5肋骨胸骨右縁	三尖弁・大動脈弁

0654-001439B

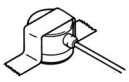
センサを装着する

1. 装着部位の汗や脂肪分をアルコールで拭き取ります。
2. 粘着カラーを台紙からはがします。

3. 心音センサの装着面に、はがした粘着カラーを貼り付けます。
4. 粘着カラーの剥離紙をはがします。



5. 測定部位に心音センサを装着します。
6. 出力コードが動かないように、サージカルテープ等でコードを固定します。



【注】検出部の固定が不安定なときや長時間記録を行うときは、センサの上からさらにサージカルテープ等で固定します。安定した記録を行うことができます。

使用上の注意

重要な基本的注意

- 傷および炎症のある部位には装着しないでください。
- 本品に衝撃を加えたり、落としたりすると、破損することがあるので、取扱いに注意してください。
- より良好な心音図を記録するためにできるだけ防音室を使用してください。防音室がない場合には、できるだけ静かな場所を選んでください。また、記録器の雑音が入らないように、できるだけ被検者から記録器を遠ざけてください。
- 本品は防水加工をしていません。本品を直接薬液や水に浸さないでください。
- 本品を接続する機器の取扱説明書も合わせて参照してください。
- 本品は滅菌できません。

相互作用（併用禁忌・禁止：併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
高圧酸素患者治療装置	使用禁止	爆発または火災を起こすことがある
可燃性麻酔ガスおよび高濃度酸素雰囲気内での使用	使用禁止	爆発または火災を起こすことがある
磁気共鳴画像診断装置（MRI装置）	MRI検査を行うときは、センサを患者から取り外すこと	誘導起電力により局部的な発熱で患者が熱傷を負うことがある 詳細は、MRI装置の取扱説明書の指示に従うこと

貯蔵・保管方法および使用期間等

使用環境条件

温度範囲　10～40℃
湿度範囲　30～85%
気圧範囲　700～1060hPa

保存環境条件

温度範囲　－10～60℃
湿度範囲　30～95%
気圧範囲　500～1060hPa

耐用期間

本品は消耗品です。開封時に傷、破損があった場合、材料に変質が見られた場合は、無償交換いたします。

保守・点検に係る事項

消毒・清掃

水、中性洗剤または消毒用エタノール（日本薬局方基準を満たすもの。濃度：15℃でエタノール76.9～81.4vol%）を含ませた柔らかい布できれいに拭きます。

包　装

1個単位で梱包

製造販売
製造業者　日本光電　日本光電工業株式会社
東京都新宿区西落合1-31-4　〒161-8560
(03)5996-8000(代表)　Fax(03)5996-8091